

主催者あいさつ

■ 開会あいさつ 三重県 石垣 英一 副知事

東海環状自動車道の整備が進むことで沿線地域への様々な効果が現れ、地域が活性化し、住民や企業の方々がその効果を実感いただいております。豊かな暮らしの実現に向け、さらに今後の整備が進むことへの期待も非常に大きくなってきています。

本日は、既に開通から10年を越えた東回り区間で発現した様々な効果や、整備が進む西回り区間の全線開通への期待の高まりなどを皆様と共有し、東海環状自動車道を軸とした地域づくりについて、理解を深めていきたいと考えています。そのような機会となることをお祈り申し上げまして、主催者を代表して、開会のご挨拶とさせていただきます。



■ 閉会あいさつ 岐阜県 上手 繁雄 副知事

本日のシンポジウムでは、(株)百五総合研究所の中畑様をはじめ、(一社)中部経済連合会様、中部地方整備局様、沿線自治体の首長様、沿線関係各界の皆様方から東海環状自動車道の効果や全線開通に対する期待の言葉を頂戴し、改めて西回り区間の整備を進めなければいけないということを再認識したところで。

岐阜県では、10年以上前に東回り区間が完成し、その効果を実感しており、現在は西回り区間において企業進出、土地開発が進んでおります。また、観光の面でも岐阜県、三重県が連携し、東海地方の素晴らしい観光を発信していきたいと考えております。

そのためにも全線開通に向け、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、閉会のご挨拶とさせていただきます。



参加人数:約430名

東海環状地域整備推進協議会シンポジウム

地域の活性化と豊かな暮らしを実現する東海環状

～生産性革命による成長力の強化～

《報告書》

基調講演

テーマ:「東海環状全線開通がもたらす地域の発展」
～高規格道路整備と経済、暮らし～

事業報告

報告①:「中部圏交通ネットワークビジョン」
報告②:「東海環状自動車道 事業報告」

パネルディスカッション

テーマ:「地域の活性化と豊かな暮らしを実現する東海環状」
～生産性革命による成長力の強化～

開催日

2016年10月20日(木)

会場

名古屋国際ホテル

《基調講演・コーディネーター》



(株)百五総合研究所
地域調査部 部長
中畑 裕之氏

1959 (昭和34)年 三重県四日市市生まれ
1981 (昭和56)年 (株)百五銀行入行
1992 (平成4)年 百五経済研究所
(現百五総合研究所)
調査研究部主任研究員
2006 (平成18)年 地域調査部 部長 (現職)

委員・公職等:三重大学産学官連携アドバイザー、
三重県中小企業診断協会三重県支部副委員長、
三重県地域活性化プラン推進検討会議委員
等

整備の概要



主催:東海環状地域整備推進協議会
後援:株式会社 中日新聞社

1 基調講演

「東海環状全線開通がもたらす地域の発展 ～高規格道路整備と経済、暮らし～」



(株)百五総合研究所
地域調査部 部長
なかはた ひろゆき
中畑 裕之 氏

これまでに高速道路が整備されたことで、実質GDPの増加に伴い地域の産業振興を支えてきました。例えば、小牧IC付近では、製造品出荷額がIC整備前と比べて約30倍になるなど、日本全体の成長よりもかなり大きな発展を遂げています。

最近では渋滞緩和による環境の改善・共生や高速道路の構造利点を活かしてIC周辺に防災、救急・救命等の拠点を設けたり、PAに直売施設などを設けることで地域の交流、PRといった従来とは違った高速道路の活用がされています。また、新たな技術開発と生産性向上への期待（連結トラック走行、自動運転による荷物の自動搬送等）など、道路は交通だけに留まらないものが求められています。

高速道路は整備されただけで効果が出るというわけではないため、開通後のまちづくりのことも踏まえて、整備された後にどのように効果を出していくのか、また立地後のアフターフォローをしていくことも必要だと思います。

2 事業報告

報告：中部圏交通ネットワークビジョン



(一社)中部経済連合会
社会基盤部担当部長
やまぐち さとる
山口 智 氏

中経連では、本年4月に「中部圏交通ネットワークビジョン」を取りまとめました。中部圏が我が国経済を牽引し続けていくためには、交通インフラのさらなる整備、強化が不可欠であるとの認識のもと、既存のインフラを賢く使いながら、限りある財源を、どこに投入していくべきかについて具体的な拠点や道路に言及し、記載しています。

交通ネットワークの充実は、物流の効率化、新たな産業集積地の形成（ストック効果）、新たな企業間取引や商圏の拡大などへの寄与のほか、リア効果の広域への波及、観光の活性化、住居者にとって魅力ある地域の創生、国土の強靱化などにも重要な役割を果たします。

東海環状は、ミッシングリンクが解消し、港湾、空港、鉄道等の交通ネットワークが有機的につながることで、広域的な視点からも、中部圏に大きな効果を発揮するものと期待しています。

3 パネルディスカッション

「地域の活性化と豊かな暮らしを実現する東海環状～生産性革命による成長力の強化～」というテーマで、地域の製造・運輸・観光産業及び救急医療分野からの代表と地元の首長らによるパネルディスカッションを行い、それぞれの状況と今後の期待を共有しました。

上段：テーマ①《これまでの開通による効果》

下段：テーマ②《全線開通への期待～生産性革命による成長力の強化～》

愛知県 瀬戸市 伊藤 保徳 市長



瀬戸市では、愛知県区間の開通後、企業活動が活性化し、製造品出荷額等が1.5倍に増加しています。せと品野IC付近に開業した道の駅「瀬戸しなの」では、年間約70万人が訪れるなどの効果が発現しています。

全線開通により、主に産業面において地域が県境をまたいで広域で連携を深めることができ、日帰り旅行をはじめとするさらなる地域観光の振興、地域経済の活性化など、沿線の各市町が広い意味で広域の連携をしながらこの地域がより豊かになることを期待しています。

豊栄交通(株) 境 政義 社長



近年は日帰りバスの人気が非常に高く、東回りの開通以降、日帰り観光の移動範囲が飛躍的に広がったことで、愛知県のバス事業者に限らず、岐阜、三重のバスも開通によるストック効果は大きいと考えています。

全線開通により、岐阜県西北部や三重県北部の観光資源のさらなる活用や、複数観光地間の新たな周遊プランの提案が可能となります。さらに、東名・名神・東海北陸道等と合わせた昇龍道ルートのひとつとして、インバウンド観光のさらなる取り込みという観点からも、全線開通は急務です。

岐阜県 岐阜市 細江 茂光 市長



岐阜県は、港湾も空港もないため道路ネットワークが地域発展の生命線になっており、東海環状自動車道は非常に重要な役割を担っています。東回りができ、岐阜県の有効求人倍率は1.65倍(H28年8月)と、全国で第4位となる等、効果を実感しています。

岐阜市では、市内で初めてとなる高速道路のICやSICの開通を見据え、ものづくり産業等の集積地の整備や総合公園の再整備、訪日外国人旅行者の増加に向けた取り組み等を行っています。東海環状自動車道の全線開通が、新たな企業進出や来訪者、観光客の増加に重要な役割を果たすものと期待しています。

岐阜大学医学部附属病院 小倉 真治 院長



東海3県（愛知・岐阜・三重）では年間45万人が救急搬送されています。救急活動では1分遅れることで死亡率が2%上がることから、東海環状完成は多くの方々の喜びとなります。

全線開通により当病院へ30分で到達できる範囲が15倍になるなど、ドクターヘリが使用できない状況（夜間、雨の日など）においても、そこをカバーする地域が広がることは非常に大きな効果であると思います。また、東海3県の6大学病院間の広域医療連携により、更に良い医療の提供が可能になります。

三重県 いなべ市 日沖 靖 市長



東海環状の計画からも、町村合併時(平成15年)と比べて企業数が2割、従業員数が3割(約5000人)増加し、税収入も増加するなど、産業活動・市民生活への効果が発現しています。

三重県は地形的に津波による浸水被害を受ける地域が広いため、全線開通により、災害時における大動脈のバックアップとしての機能も大きく、湾岸地域が浸水しても大動脈が担保されるようなまちづくりを目指しています。また、北勢ICの隣接地に新しい市役所庁舎の建設も計画しているところです。

(株)三五三重 多賀 良蔵 社長



弊社は愛知県との結びつきが強く、材料の搬入や、客先への納入で1日約150便、往復約300便走っています。東員ICの開通により、愛知県の本社までの所要時間が約20分短縮しています。

いなべ市に13年前に進出し、全線開通を見込んで8年前に2箇所目の工場を建設しました。通勤者も多く利用しており、複数の高速道路と繋がることによる新規取引業者の開拓や、岐阜県方面からの人材確保、自然災害時の物流ルートの複数確保などの効果を期待しています。